

# 朋友だより

暗い話題ばかり続く昨今、明るい話題を、と思い「幸福度」について調べて見ました。このテーマから追っても、日本は「やや異質の国」と言えそうです。  
ご参考になれば幸甚です。

2012年2月

(有)コンサルタント朋友  
代表取締役 奥長弘三



## 幸せについて考える



大震災から間もなく1年になろうとしています。この間にもタイの大洪水、円高の進行などが起こり、日本経済をめぐる情勢は一向に好転しません。日本全体が出口の見えない暗いトンネルの中に迷い込んだ感じです。このような時だから、明るい話題を追いました。

### 「幸福度」が注目されている

昨年 11 月にブータン国王夫妻が来日されたのを機に「幸福度」が注目されています。今回来日された国王の父君、第4代国王が 1976 年に唱えた GNH「国民総幸福」(Gross National Happiness)が発端です。

日本の全国の自治体でも、住民の幸福度を探り、政策立案に生かそうとする動きが広がっているようです。(日経 2011.12.26)

また、内閣府は昨年 12 月に「幸福度指標試案」なるものを発表しました。主観的幸福感、三つの柱(経済社会状況、心身の健康、関係性)及び持続可能性の約 130 の指標から成るものです。試案の段階とのことで、実用にはまだ時間がかかるでしょう。

GNH 発祥の地、ブータンとはどんな国でしょう。同国で 10 年余、生活した経験を持つ今枝由郎氏の著書『ブータンに魅せられて』(岩波新書 2008 年 3 月)によって見てみます。

同国は敬虔な仏教徒の国として知られています。永く外国との交流から遠ざかっていたため、世界の近代化から取り残されます。同国の近代化が始まるのは第3代国王(在位 1952-72 年)の時代からですが、そのあとの第4代国王(在位 1972-2006 年)の方針が、現在の同国のあり様を決定づけています。

第4代国王が 1976 年に提唱した GNH(国民総幸福)という方針、信条、理念です。それは同書によると下記の通りです。

それは、もし物質的發展の名のもとに伝統文化が失われるとすれば、それは最も悲しむべき事であり、そうした結果を招くような近代化、経済發展は是が非でも避けなければならない、ということである。つまり、物質的發展によって、心の安らぎが損

なわれることがあってはならない、という固い信念である。これは現第5代国王の下でも継承・推進される政策であり、ブータンをもっとも特徴づけるものである。(同書 P.160)

国民の幸福を最優先に考える政策です。著者の今枝氏が 2004 年 7 月に第4代国王に面謁した際、話が GNH に及んだときの国王の言葉が紹介されています。「国民総幸福」を考える上で大変参考になりますので、長文ですが、引用します。

国として経済基盤は必須であり、ブータンも当然経済發展は心掛けています。しかし仏教国としては経済發展が究極目的でないことは、経済基盤が必須であることと同様、自明のことである。そこで仏教国としての究極目的として掲げたもの、それが「国民総幸福」である。しかし今考えると、「幸福」というのは非常に主観的なもので、個人差がある。だからそれは国の方針とはなり得ない。私が意図したことはむしろ「充足」である。それは、ある目的に向かって努力する時、そしてそれが達成された時に、誰もが感じることである。この充足感を持つことが、人間にとってもっとも大切なことである。私が目標としていることは、ブータン国民一人一人が、ブータン人として生きることを誇りに思い、自分の人生に充足感を持つことである。

仏教国ブータンの国家元首としての確たる「国民総充足」論である。(同書 P.166)

日本の近代化を振り返ると、ブータンの生き方と全く逆の方向に歩んできたことを改めて思い知らされます。

明治維新の文明開化のかけ声の下に、医学、服装といった生活の根幹をなす分野まで、千年余にわたって築き上げられてきた自国の伝統を棄て、西欧化しようとした日本のそれとはまったく好対照である。

(同書 P.122)

この流れは平成の現在でも変わりがありません。国際競争力をつける為ということで、全てのことが二の次におかれています。産業の発展を最優先にする日本のあり方をそのままにしておいて、国民の幸福を云々しても、絵空事に終わることを危惧します。

この点をどう考えるか、いろいろ思案している時、格好の本に出会いました。

## 『不幸な国の幸福論』を読む

加賀乙彦著『不幸な国の幸福論』(集英社新書 2009年12月)です。本のタイトルにある「不幸な国」と今日の日本を呼ぶわけは、憲法13条にある「全ての国民は個人として尊重される」が殆ど空文になっている現状があるからだ「あとがき」で述べています。

著者は人間の幸福について、いろいろな切り口から論じています。小生なりにまとめてみますと、次のようになります。

### 1. 生き甲斐を持つ

生き甲斐というもの人間がいきいきと生きて行くための空気と同じようになってはならないものである。生き甲斐を感じることは幸福感の一つであり、しかもその一番大きいものといえる。人のために何かをすること、**「私は必要とされている」「私には生きていく意味があるのだ」と実感できる最も簡単な、そして誰にでも可能な方法である。**

### 2. 「足を知る」豊かさ

紀元前5世紀、中国春秋時代の老子が「足を知る者は富む」と道を説いてから、二千数百年が流れたが、足を知ることが、今ほど難しく、また必要とされることはない。

先進国と呼ばれる国に住む人間の際限なき欲望が、それ以外の国の人々や他の生き物たちを追いつめ、環境を破壊している。その結果、我が子や孫も含めた人類の未来さえ危うくしている。

### 3. 正しい方向に努力する

向上心や努力は、幸せに生きる上で欠かせない鍵の一つである。自分の性格や能力に応じた目標を定め、今の自分にできる努力を正しい方向に積み重ねていく。

足を知ることは、諦めるということである。物事の本質を見極めれば、つまらないことに固執しなくなる。

1943年にラインホルト・ニーバー牧師が捧げた祈りは、大変重いものである。

**神よ、私たちに与え下さい**

**変えることのできないものを受け入れる冷静さと、変えることのできるものを変える勇気を。**

**そして、その二つを見分ける為の知恵を。**

### 4. 市民としての自覚を忘れない

市民とは、自分のまわりの世界がどう組織されるかは自分の行動にかかっていると、折に触れて自らに言い聞かせる人間である。

市民はときに不正に対して憤り、なんとかしなくてはいけないと思い立って、社会に関わっていく。受け身の姿勢では市民としての立場を失うことになる。

日本の現状は「まったく信頼していない者の手に、自分の幸せを委ねきっておきながら、幸せにしてくれないのは、ひどい」と文句を言っているのに等しい。

## 日本のビジョンを描く

20年後、50年後の日本に思いを馳せながら、日本の将来像を考えてみました。

現代文化史を大きく三段階に分けると、前工業時代、工業化時代、そして脱工業化時代となりますが、日本は「脱工業化」への準備がすべて整っているのに、次への移行が進まず、相変わらず産業最優先がまかり通っています。近い将来、日本も脱工業化、知識産業の時代に移行することが必須です。

脱工業化社会では技術(テクノロジー)が再び自然や伝統文化と結びつきます。欧米で一旦造られた河川のダムやコンクリート壁が撤去され、自然を取り戻しているのはその一例です。

知識社会では、人間の人間的能力を高める為に教育が重視されるとともに、人間の健全な生命活動を保障する為に、医療と環境が重視されます。



## 株式会社 ライト

(東京都江戸川区：代表取締役 中村健治 氏)

創業、1933年の大阪ライトインキが同社の前身です。クリーニング業界のメーカー商社の老舗企業です。現在では大阪、名古屋、仙台、福岡、神奈川、札幌と全国に支店・営業所網を持っています。

文房具用インキの製造販売が創業時の事業です。同社のインキは水洗いしても消えないことから、クリーニングネーム用インキに使用されたのを機に、クリーニング業界に参入します。現在ではクリーニング業界で使用される資材類、例えば各種タック、預かり伝票、台帳、カラーホルダー、ドライ用ネット等、幅広い商品を扱っています。

その後クリーニング店でのPOSレジスターに進出し、次々と改良品を出し今では同社の事業の中心に育っています。また最近ではクリーニング業界にクラウドシステムを提供し喜ばれています。

同社商品の中でユニークなものとして、無人のクリーニング受け渡しシステムがありますが、クリーニングに出したい物をボックスに入れておけば、業者が集荷、仕上がり品をまたボックスから無人で受け取ることができるシステムです。近年のマンション住人に重宝がられています。同社ではこれの改良品を出し、今後、一層の普及が期待されています。

初代が文具用インキからスタートした同社ですが、消えないインクをもとにクリーニング業界に進出し、二代目が各種クリーニング資材だけでなく、クリーニング店で扱うPOSレジスター、更にはクリーニングの無人スタンドまで手掛ける見事なまでの事業展開を行っています。

三代目となる中村社長の御子息が、現在常務取締役の役職ですが、得意のIT技術を生かし、クリーニング業とは別に新しい展開をもたらしつつあります。

今後の展開が楽しみな会社です。

### 経営理念

さすがライトさん と言われるように

お問い合わせ：株式会社 ライト ( [URL:http://www.right.jp](http://www.right.jp) )  
〒134-8642 東京都江戸川区西瑞江4-12  
TEL.03-3653-4311 FAX.03-3654-1061

\* ~ あとがき ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \*

朋友だより 114号をお届けいたします。

もうすぐあの3.11から1年になります。忘れてはいけない被災地の方々は今、冷たく厳しい寒さの中で耐えておられることでしょうか。今日(2/10)政府にやっと復興庁が発足しました。新聞記事によりますと関東大震災(1923年9月1日)は9月27日に「帝都復興院」が、先の太平洋戦争敗戦後(1945年8月15日終戦)に都市の復興事業を担う「戦災復興院」が11月5日に設立されたそうです。今回は1年近くとあまりにも時を経ての設立です。今更ながらなぜこんなにも対応が遅れているのでしょうか。1日も早く被災者の方々の日常が少しでも取り戻せる様にと祈るばかりです。(野上)



## 朋友

有限会社 コンサルタント朋友  
〒113-0022 東京都文京区千駄木3-36-11  
千駄木センチュリー21 602号  
TEL.03-5815-3021 FAX.03-5815-3022.

[URL:http://www.consultant-hoyu.co.jp](http://www.consultant-hoyu.co.jp)